

正恩寺報

平成21年11月

報恩講法要

十一月二十九日
(日曜日)

○ 二時

「正信偈」

唱和

○ 三時

ご法話

教学伝道

研究センター

岩谷 教授師

ご家族お揃いでお参りください。

椅子席でお参りをして頂けますので正座が難しい方でもどうぞお気軽にお参りください。

一人ひとりが勤めてくださる報恩講法要です。

正恩会

正恩寺

報恩講

報恩講は、宗祖・親鸞聖人のご遷化の日である一月十六日(旧暦十一月二十八日)をご縁として、いかなることがあっても必ず救うと常に私たちのためにはたらいてくださる阿弥陀如来のご恩と、また、その阿弥陀如来のおはたらきの真実なることを私たちに教えてくださるとともに、九十年の生涯をかけてそのおはたらきの間違いなきことを明示してくださった親鸞聖人のご恩をよるこび、報謝させて頂く集いである。

報恩講は、聖人の忌日に行うので「御正忌」ともいい、また、七昼夜にわたって行われるので「御七夜」ともいう。末寺や門信徒の家庭では、本願寺の一月九日から十六日までのご正忌に参詣する等の都合で、時期を早めて行うこともあり、「御引上げ」

「御取越」ともいう。

ご報恩講が、いつからはじまったかは明らかではないが、その名称は、本願寺第三代・覚如上人が永仁二年(一一九四年)の聖人の三十三回忌法要のおり、聖人の遺徳を讃嘆するご文を朗読し、その文を『報恩講式』と名づけた時にはじまる。それ以来、宗祖の正忌法要を「報恩講」と称するようになった。そして、第八代・蓮如上人が『御文章』の中で、さいさい「報恩講」の名をあげ、参詣する人びとの心得をさとされるにいたり、その名はいっそう広がり、末寺・門信徒の中に定着しました。

お仏壇は位牌壇？

時折、浄土真宗のお仏壇の中にも、位牌が置いておる場合があります。位牌とは死者の法名や戒名を記して仏壇の中に安置してある木牌のこととされています。しかし、もともとこの位牌は、仏教から出たものではありません。中国の儒教から始まったものです。儒教では、死人の霊が永久にこの位牌の中にとどまると信じて、神霊の居所として祀ったのです。わが国へは禅宗に伴って伝わり、一般化したのは江戸時代です。

浄土真宗では位牌に香華や仏飯などを供えることはしません。浄土真宗のみ教えは、往生即成仏です。臨終一念の夕べ、弥陀同体のさとりを開かせて頂くのですから、あくまでもご恩報謝の念から阿弥陀さまを尊崇し、ご奉仕させて頂くのです。礼拝の対象は、ご本尊の阿弥陀さまです。位牌が対象ではありません。従って、位牌は必要ありません。浄土真宗では過去帳を用い、法名や亡くなった年月日、年令、俗名などを記入します。その場合、ご本尊の正面をさけて安置します。そして、過去帳を通して、「今日はオジイちゃんの命日。一緒にお念仏申させていただきますように」と、ご先祖をご縁として、尊い仏縁に遇わせていただきたいと思います。

例年通り報恩講法要の準備、掃除を

十一月二十七日(金)朝九時からさせていただきます。

お時間のある方、ご協力お願い致します。